

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームのどか1	評価実施年月日	平成21年8月1日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成21年9月1日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>当時のスタッフ全員で作り上げた理念である。理念に基づき笑顔を忘れないよう努めている。また、毎年2月にはミーティングを開き理念についての検討を加えている。</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>スタッフルームに掲示し毎日申し送り時に復唱し、心にとめている。</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>玄関、リビングに掲示し訪問時見て頂けるようにしている。地域には運営推進会議の時伝えている。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>ケアハウスに散歩に行った時やゴミ捨てに行った時お話ししている。毎日ゴミ捨てに行きケアハウスの友人と話しをしている人もいる。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>ケアハウスの行事の時等、時々参加している。今年は町内会のお祭りがあり、日中であつたが見学できた。また、裏の幼稚園の運動会の見学や、おみこしが来る等もあつた。</p>		
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>近くの市営住宅は高齢者が多く、運営推進会議に町内会長も参加して参加しており話を聞いている。また、町内会・地区民生委員との定期的な会合の開催を計画している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>13 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情BOXを設置している。面会時などにご家族から意見を頂いた時は、運営会議やサービス向上委員会にて話し合い、また、ミーティングにて解決できることはミーティング時にて話し合いを行っている。</p>		
<p>○家族等への報告</p> <p>14 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>面会時に日常の様子を報告しており、面会に来られない家族には、電話による報告や「のどかだより」に写真を載せる等している。</p>		
<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>15 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ホームの玄関に苦情BOXを設置しており、面会時や状態が変わった時は話すようにしている。また行事時でも気軽に話しや意見を聞けるようにし、スタッフへ伝達している。</p>		
<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>16 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回のミーティングにおいて意見を聞く機会を設けている。また、2ヶ月の1度ファインド報告を行ない、施設ハード面・利用者の介護面・施設運営面について職員一人ひとりが意見を記載し、運営者の決裁を受けている。</p>		
<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>17 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>受診が発生した場合などは勤務の調整をし、他利用者への影響が出ないように援助するために工夫している。</p>		
<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>18 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>退職者がいる場合は引続き期間を設け、少しでもなじみの関係を作れるように努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>施設内研修は毎月定例で法人本部より講師を招き実施している。外部の研修は、機会があれば参加するようにしている。また、研修を受けたスタッフへ伝達することで情報を共有している。その他全職員を対象に1年間に亘る個別DVD研修を実施している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム連絡会・協議会に出席し、他の施設の方たちと話し、サービスの向上に活かせるよう努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>業務上のストレスについては、自分のしている仕事が理解されない、評価されない場合が多く、これらのストレスを抱え込まないよう日常的に話し合いの場を持つようにし、その場で解決できない時にはミーティングなどで話し合い、お互いに共有し、理解を深めるよう努めている。時々職場外で集まる機会を設け、ストレス軽減の工夫をしている。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>運営者は時々現場の様子を見に来ており、職員がやりがいを失った時や向上心が低下すると離職につながっていくものと考え、スタッフのモチベーションが下がらないよう状況判断のためにも会話することを努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居相談時、ご家族や関係機関からの情報を中心に面談を行っている。また入居の際には、本人面談を行うようにし、当事者の状況も把握するように心がけている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前面談においてはご家族・ご本人が求めている事、希望されていることを確認し合い、当施設で可能か否か話し合い説明するようにしている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在の状態をみきわめ、本人に合った支援の方法を考えるようにしている。総合施設なので、必要に応じ他の部門への相談を含め、対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	認知症デイケアやショート、ケアハウスからの利用者も多く、本人の情報も入りやすいため、なじみの関係を大切にし、援助していく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の気持ちを尊重しつつも、大家族様にお互い支え合えるよう心がけている。人生の先輩であり、教えてもらうことも多い。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会や電話などで様子を伝え、相談しながら本人を支えていきたい。行事に参加された時なども話し合う場を設けている。	○	施設に入居したら、全ておまかせという意識の強い家族もいるため、ご家族との関係が耐えることないよう支援したい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人の状態などを話し、面会時にはご本人たちが話しやすい雰囲気や環境づくりを心がけ、支援している。また、ご家族との関係が疎遠にならないよう、行事や家族会への参加を呼びかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	1人暮らしだった人も多く、認知症になってからは地域との繋がりはあまりなかった様で、ご家族以外の面会はほとんどない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	職員の声かけにより、歌・体操などを行っている。職員が関わることにより話もはずむので、これからも行うよう努めていく。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	体調を壊し、入院の結果退居される方がほとんどである。地元のため、市内でご家族と会うこともあり、気軽に声をかけ合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いや意向は日常の会話や関わりの中で職員は感じ取っている。意思表示の困難な方は、表情や態度で感じ取ることができ、スタッフ間で検討し、把握できるように努力している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に記載していただいているが、1人暮らしだったため家族が知らない事も多く、入居してから本人の会話から情報を集めることもある。その都度ミーティング、連絡ノートで周知している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個人記録、連絡ノート、申し送りなど日常の中から把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ミーティングやカンファレンス、職員のモニタリングなどからあり方を検討し、家族とも話した上で介護計画をたてている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じ、見直しを行っている。状態が変わった時は、カンファレンスの開催や看護職員に相談する等して計画を作成している。		
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常の様子・変化・行動をこまかく記入し、申し送りや連絡ノートで情報交換し、見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ケアハウスにご家族がいる方や、友人がいる方もいる。複合施設のメリットを活用し、ケアハウスへ散歩に行ったり、行事に参加したり、また、プロムナードで他施設利用者の方たちと触れ合ったり、ご家族と過ごせる空間であったり、美容室を利用したりと、要望に応じて支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	施設全体の消防訓練時や生活保護の方の支援等で協力している。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	居宅事業所のケアマネジャーや、包括支援センターのケアマネジャーと話し合ったりしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加しており、その都度情報交換を行っている。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	グループホームにも准看護師が1名おり、施設全体では看護職員が24時間対応しており、利用者の健康管理についても相談している。協力医療機関が系列法人であり、密接な連携を行っており、往診していただいている人もいる。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関は系列法人の医療機関で、特に認知症を専門に行っている病院であり、嘱託医も同じ病院の医師であるため、利用者の治療や診断に協力していただき、円滑に行っている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	ホームにも施設全体にも看護職員がおり、24時間365日体制で健康管理・医療活用の支援をしている。突発的な発熱や転倒時においても、必ず看護職員が状態チェックするようになっている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	協力医療機関に入院している時は、特にまめに情報交換を行っており今後のことについても家族と相談している。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や、終末のあり方について説明し、同意を頂いている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	「できること・できないこと」のシートを活用し、プランなどにいかしている。日々状態が変化するため、その都度様子を見ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>終末期を自宅でみたいという理由で退居した方が1名、他は入院退居のため医療機関には、介護添書に詳しく記入し提出している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>日頃から言葉遣いや記録の書き方に注意している。新規職員採用時には、必ず個人情報に関する誓約・同意書をもらっている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>1人1人に合わせ、急がずゆっくり答えを待つように気をつけている。意思疎通の難しい人は、表情や動作から汲み取り支援している。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>出来る限り、一人ひとりのペースを大切に、希望に添えるよう努力している。また、居室以外で居間・和室・食堂等において複数の居場所づくりをするように心がけ、その時その時の状態等を観察し対応している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>理・美容は施設内にあるため、なじみになっている人が多い。家族とともに昔からの所に通っている人もいる。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>野菜を刻んだり、盛り付け、配膳などその人により出来ることは違うが、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	毎日ヤクルトを飲んでいる方や家族が好みのオヤツを持って来てくれることもある。居室内でも飲食は誤嚥などの問題もあり、注意している。		
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	自分から訴えない人については排泄パターンのチェック、サインを見逃さないよう特に注意して見守っている。		
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴をのんびり楽しむために午前中に入浴する人もいれば夕方に入浴する人もいる。出来るだけ希望に添えるよう支援している。		
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	居室で昼寝する人もおり、それぞれの生活パターンを尊重して過ごせるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	残存機能を失わないよう、洗い物、盛り付け、調理など得意なことを行って頂くよう支援している。また、週2回専門講師をお呼びし、音楽療法を行っている。		
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所持している人もおり、時々おやつなどを買っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	身体状態の低下により戸外に散歩に行くことを嫌がる方が多いため、ケアハウスに散歩に行く程度になっているが、たまに家族と外出する人もいる。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	紅葉ツアーを行ったが、声かけしても、車外に出る人はいなかった。職員と衣類を買いに外出した人もいる		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	電話をかけたいと言う方には、電話をかけてあげている。手紙が来る方もおり、手紙を出したい人には住所を書いてあげる等している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族面会時には、お茶を出したりまた来てくださるよう話している。認知症状が進み、友人が面会に来ることはなくなった。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束ゼロの手引き、行動制限に対するガイドラインをスタッフルームに置き、スタッフ全員に周知し、ミーティング時などに確認しあっている。また、法人本部より講師を招いて講習会を開催している。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	一部の家族から施錠の強い申し出があり施錠しているが、(以前施設から失踪することがあり、数日間捜索を行ったことが原因)現在も引き続き開錠について説明する努力を続けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>一人ひとりの行動や所在をその都度把握し、安全に配慮している。オープンキッチンなので家事を行いながら、さりげなく見守ることが出来る。</p>		
<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>危険物となる物が人により違うため、爪きり、ハサミなどアセスメントシートによりはその人に応じた対応をとっている。洗剤、漂白剤、包丁などは危険性が高いため、スタッフが施錠管理している。施設内の安全チェックシートを作成し、毎日確認している。また、家族にも危険物の取り扱い、持ち込みについて協力を頂いている。</p>		
<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>些細な事例についてもヒヤリハット・転倒報告・事故報告を行うようにしており、転倒事故発生後はカンファレンスを実施し利用者の状況、ケアプラン等も考慮し事故防止に取り組んでいる。 又、スタッフ全員に対し、危険予知訓練を等の研修を行いリスクマネジメントの意識づけを行っている。その他、入居先に対し法人本部職員より定期的な嚙下評価を実施している。また、2ヶ月に1度全職員が行なうファインド報告にて、ADLや嚙下状態の低下が見られる入居者の報告を行い、対策を検討している。</p>		
<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>AEDの取扱い講習や救命講習に参加している。急変時マニュアルがあり、スタッフ全員に周知している。誤嚥時の対応についての実地研修を行い、吸引ノズルの使用方法も訓練している。また、急変時の対応のシミュレーションもミーティングのときに行い、確認し合っている。</p>		
<p>○災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>施設内で昼・夜間対応の訓練を実施している。スプリンクラーを設置し非常食も用意している</p>		
<p>○リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。</p>	<p>ご家族には、状態が変化するたび報告しており、リスクについても話している。必要な物がある場合はご家族と相談し、協力して頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日決まった時間にバイタルチェックを行っており、スタッフ一人ひとり入居者の状況を把握している。変化や異変があった場合には、速やかに看護職員に見てもらい、受診等の対応をしている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的や副作用等について職員に周知している。服用後は変化がないか確認し、記録している。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	下剤の調節、水分摂取の声かけ、水分チェック、食事の工夫など、予防と対応に努めており、毎日軽体操も行っている。朝、毎日TV体操やラジオ体操を行うことにした。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	施設長が歯科衛生士であり、口腔清掃には熟知している。スタッフ研修も行い、口腔ケアの声かけや見守り、介助など入居者一人ひとりに合わせ支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個人記録は食事量、水分量が1日を通じて一目でわかるようになっている。スタッフは入居者一人ひとりの状態や力、習慣を把握しており、それぞれの好みやその人にあった形の食事を提供しており、摂取量、水分量が確保できるよう努力している。また、法人本部の管理栄養士が毎月の献立をチェックしている。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設全体のマニュアルがあり、研修を行っている。また、ノロウイルスやインフルエンザの流行する時期においては、張り紙等において症状のある方の面会を制限している。その他ノロウイルス等における吐物の処理方法について法人本部より講師を招き、実地訓練を行っている。またインフルエンザ対策としてプラズマクラスターイオン(加湿空気清浄機)や携帯用アルコール消毒液を購入し予防に勤めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食洗機を使用しており、まな板などは漂白、殺菌している。食材は毎日新鮮なものを使っている。また、定期的に法人本部の管理栄養士が定期的に衛生管理の状況をチェックしている。保健所から食中毒警報が出された時はすぐに連絡するシステムをとっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関前から門まで庭になっており、植木が植えられている。また、大きく見やすい表札をかけている。RC構造だが、木造風の外観設計にし、施設的ではなく、住宅に見えるよう配慮している。		
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設の中は、家庭のようにあたたかな雰囲気を出すため、タイルカーペットを使用している。入居者の方が作った作品や行事の写真を貼る等をして、居心地良いよう工夫している。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者が自分で好きな場所で過ごせるよう、リビング、食堂和室など数ヶ所の場所を設置している。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人のなじみの物を持ってくる、状態に合わせたベッドを用意する等をし、それぞれ好みの物を自由に置いている。造花や、家族の写真を飾っている方もいる。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	各居室には湿度センサーを設置している。リビングは、定期的に窓や換気扇にて換気を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>共用スペースの他トイレにも手すりがあり、広く車イスの方でも介助しやすくなっている。必要や危険と思われるものに対してはその都度対応している。</p>	
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>入居者はその日により状態が異なるが、申し送りやミーティングで一人ひとりの能力を職員全員で理解し、支援している。</p>	
87	<p>○建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>花壇ではじゃがいも作り、中庭では花や、トマトを入居者と作り、中庭で食事をした。</p>	



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない</p> <p>日頃入居者とのコミュニケーション時や介助時等で思いや意向を色々とお話することで知ることができる。情報はスタッフ間で共有するよう努めている。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない</p> <p>普段は介助・食事作りに追われているが、お茶の時間には利用者さんと一緒に過ごすよう努めている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>利用者さんのペースを見て支援している。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>職員が関わると傾眠が減る傾向にある。声かけをして手伝って頂くこともあり、満遍なく声かけしている。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>家族と出かけることが多く、外への散歩はあまり行きたがらない。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>看護職員もおり、週1回の嘱託医の往診、皮膚科の往診もあり安心して過ごせている。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない</p> <p>できるだけ要望に答えている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない</p> <p>面会時は現況を報告している。面会に来ないご家族には電話や、書類を送る時、簡単な手紙を書いている。</p>

V. サービスの成果に関する項目			
	項目	取り組みの成果	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない	ご家族や親類、音楽療法士、軽体操の講師が来ているが、近所の人の訪問がない。
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない	運営推進会議を通じ交流を深めており、町内のお祭りの山車も来て頂き、少しずつ地域に浸透してきたと思う。
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	介護度も高くなり、書類や食事作りなど負担は多いが、生き生きと働いている職員もいる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	認知症状が進んでいるため不満を訴えてくる人はほとんどいないが、音楽療法やレクを皆さん楽しみにしている。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	面会に来てくださる家族からは、「ここに入れてよかった」などお礼の言葉をいただいている。のどかだよりを楽しみにしている家族もいる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

グループホームでは、入居されている方の尊厳を守り、その人らしい生活を尊重することが基本となります。日常生活での潤いも大切です。これらを実践するためには、まず、職員一人ひとりが理解し資質を向上させていくことが重要と考え、当法人及び系列の医療法人とも連携し、職員教育に力を入れるようにしています。また、リスクマネジメント教育については2ヶ月に1度全職員一人ひとりが42項目(①施設環境・設備に関する事②入居者ADL等に関する事③入居者の嚔下状態について④書式や記録などシステム上の改善について)についてのファインド報告を所属長経由で開設者決裁を受け、防止等に努めています。その他入居されている方に対しては、専門の講師を呼び、音楽療法及び軽体操を行ない、日常生活に変化をつけています。特に音楽療法の効果は大きく、楽しみに参加される方も多く、日常でも皆で歌う機会が増えてきています。